

町民アンケート調査の結果について

町民アンケート調査の結果について

1. 町民アンケート調査及び自治会アンケート調査の概要

(1) 町民アンケート調査の概要

町民を対象に、日常的な交通行動、公共交通の利用状況及び公共交通の利用意向や改善ニーズ、新しい交通システムに対する希望などを把握することを目的にアンケート調査を行いました。

調査方法	調査対象者：住民基本台帳から無作為抽出 15歳以上の町民 2,500人対象 調査方法：郵送配布、郵送回収 調査期間：令和4年8月下旬～9月中旬
回収状況	配布数：2,500票 回収数：1,150票 回収率：46.0% (*各自治会別の配布数はアンケート調査結果参照)
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・回答者の属性・回答者自身と同居する家族の自動車の利用状況・自宅周囲の公共交通利用環境・日常の移動の目的、交通手段、行き先・日常の移動のしやすさ・鉄道(JR御殿場線松田駅、小田急小田原線松田駅)の利用状況・これからの新松田駅北口駅前広場のあり方について・路線バスの利用状況・タクシーの利用状況・自転車の利用状況・将来の自家用車の利用意向・将来の公共交通システムについて・自由意見

(2) 自治会アンケート調査の概要

町内の各自治会長を対象に、各自治会における公共交通に関する記入式のアンケート調査を実施しました。

調査対象	調査対象者：町内26自治会の自治会長
調査方法	調査方法：郵送配布、郵送回収 調査期間：令和4年9月上旬～9月中旬
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・運転免許返納者の状況や運転に不安を持つ人の状況・自治会内における公共交通に関する相談や悩みの有無・バスの利用についての考え方、バスを利用しやすくするための方策・タクシーを呼んだ場合の待ち時間、タクシー利用についての不満や問題点・自治会住民が抱える日常の移動についての困りごと・将来的に必要と思われる公共交通システムのイメージ

2. 町民アンケート調査結果

- 本町の目的別利用交通手段では、自家用車の利用が圧倒的に多く、自家用車に依存した交通移動となっています。
- しかし、自動車運転免許証を保有する町民のうち、60代では1.5%が運転免許証を返納予定、70歳以上では4.5%が返納予定と回答しています。
- 現状でも日常の移動に不便を感じて、外出をあきらめたことがあるという回答が約30%にのぼり、外出をあきらめている理由では「目的地まで徒歩・自転車で行けないから」が約26%で最も多く、次いで「利用できるバスや鉄道駅が近くにないから」が約13%、「バスや鉄道だけでは目的地まで行くことができないから」が約11%となっています。
- 今後の高齢化の進展に伴い、自家用車を利用できなくなる高齢者が増えることにより、この傾向は高まることが予想されます。

表 60歳以上の回答者における運転免許保有者数と運転免許返納予定の状況

	免許保有者	免許返納予定	対象年齢に対する免許返納予定者割合
60代	195	3	1.5%
70歳以上	287	13	4.5%

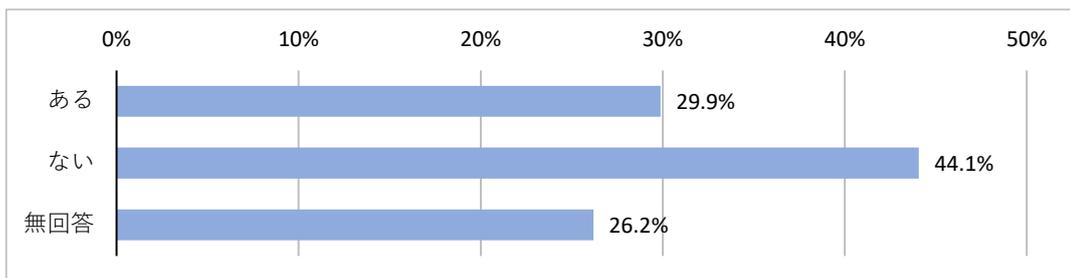


図 日常の移動手段について不便を感じて外出をあきらめたことの有無

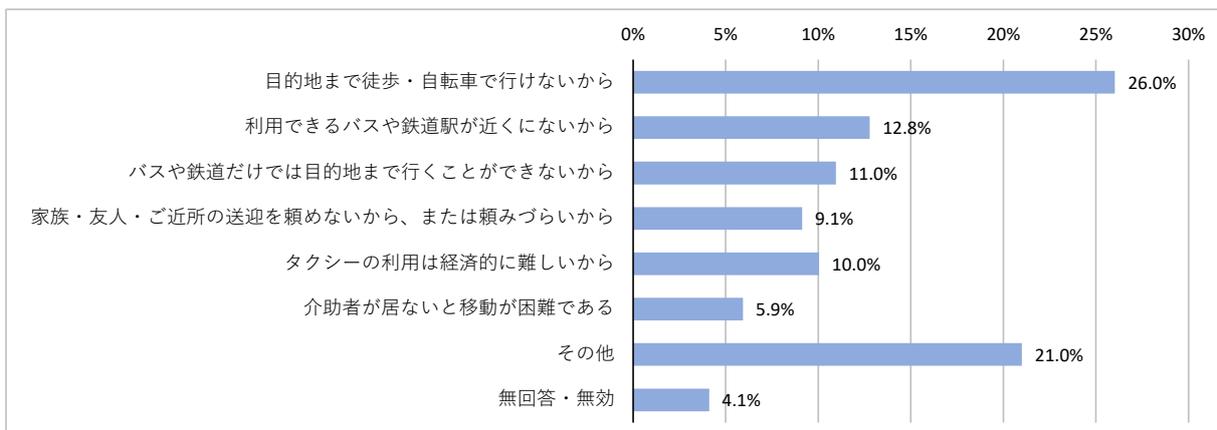


図 日常の移動に不便を感じて、外出をあきらめている理由

- 東名高速道路よりも北側の地域は、地形的に丘陵・山地部となっており、自宅周囲の地形は「歩くのに苦労する傾斜地・坂道のある土地である」が全体では約32%ですが、寄地域では約71%がそのように回答しています。また、寄地域では「最寄りバス停まで500m以上」の方が約22%となっており、高齢者や障がい者にとってはバス停留所までの移動も容易ではないことがわかります。
- 路線バスの運行サービスに対する評価でも「自宅からバス停までの距離」に不満を感じている方が約31%となっています。

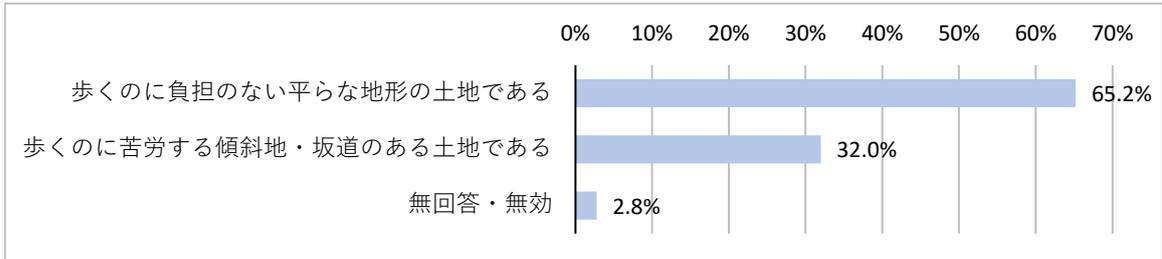


図 回答者の居住地の土地の形状

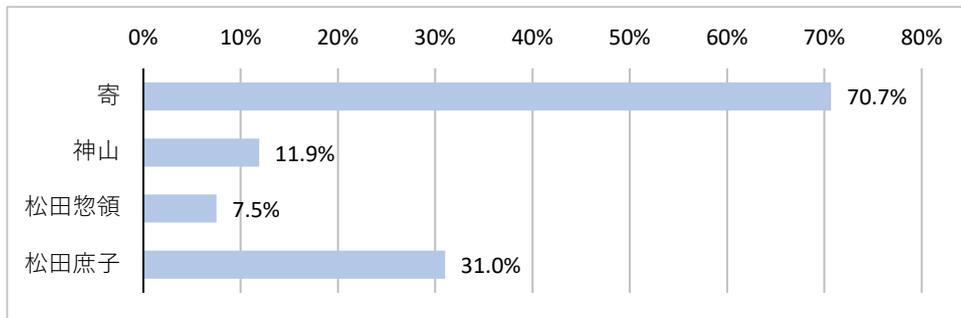


図 地域別にみた「歩くのに苦労する傾斜地・坂道のある土地である」という回答

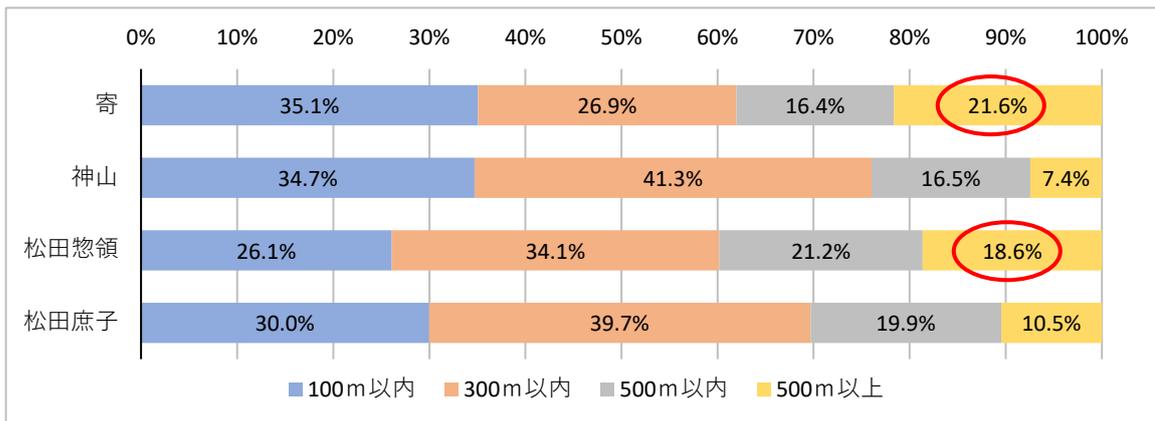


図 地域別の自宅から最寄りバス停までの距離

注：比率割合は四捨五入の関係から必ずしも100%とはならない

- 移動・外出する主な目的は、「買い物」（約 87%）、「通院」（約 51%）、「遊び・趣味・習い事」（約 38%）の順です。
- このうち、買い物の頻度は「週に 1～2 日」が約 52%で最も多く、次いで「週に 3～4 日」が約 24%、利用交通手段は「自家用車」が約 74%を占めており、最も多い買い物の行き先では、「大井町」が約 34%となっています。
- 通院の外出頻度は、「月に 1～2 回」が約 30%で最も多く、利用交通手段は「自家用車」が約 61%を占めており、最も多い行き先では、「町内」が約 34%となっています。

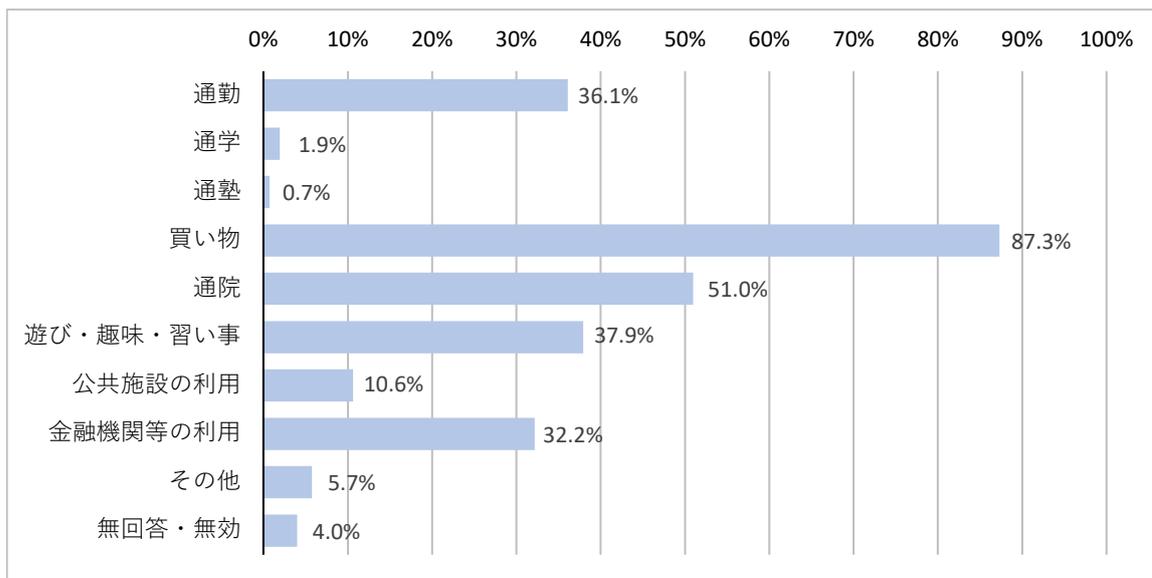


図 移動・外出する主な目的（複数回答）

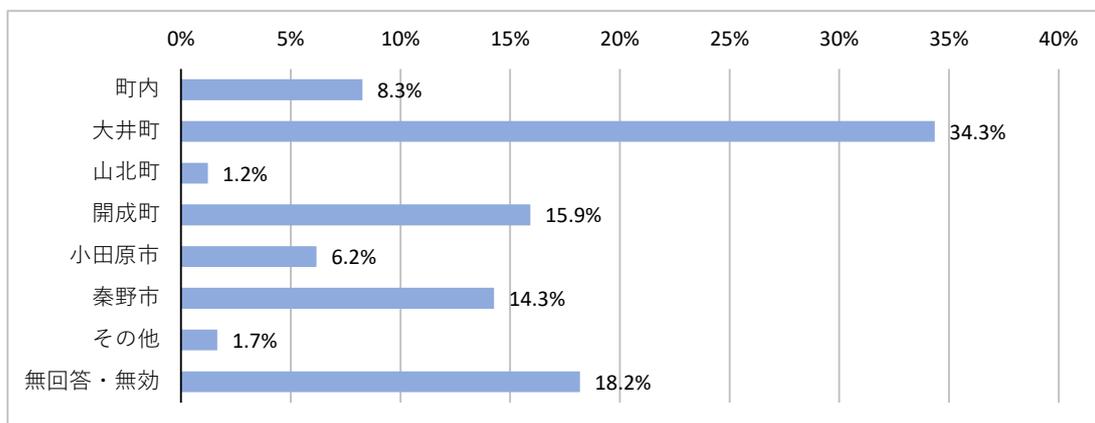


図 食料品・日用品の買い物の最も多い行き先

- 公共交通の日常の移動の不便さの中でも、バスは「とても不便だと思う」が約 27%、「ある程度不便さを感じる」が約 32%となっています。
- これを地域別にみると、寄地域では「とても不便だと思う」が約 36%、「ある程度不便さを感じる」が約 38%、神山地域では「とても不便だと思う」が約 40%、「ある程度不便さを感じる」が約 35%ととても高くなっており、地域によるバス交通の利便性に大きな違いが生じています。

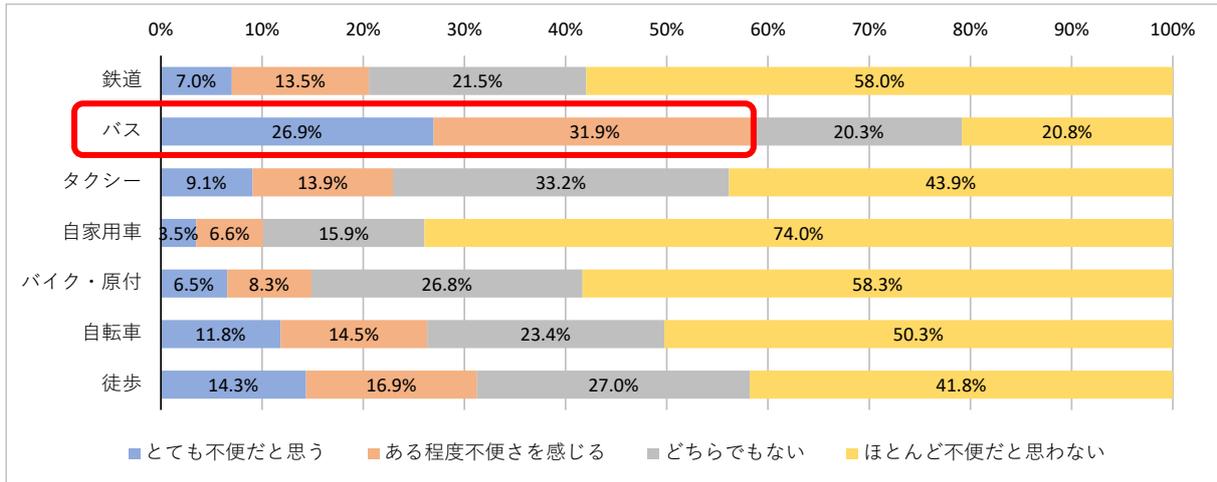


図 日常の移動手段についての不便さを感じる状況（利用しないのでわからない・無回答含めず）

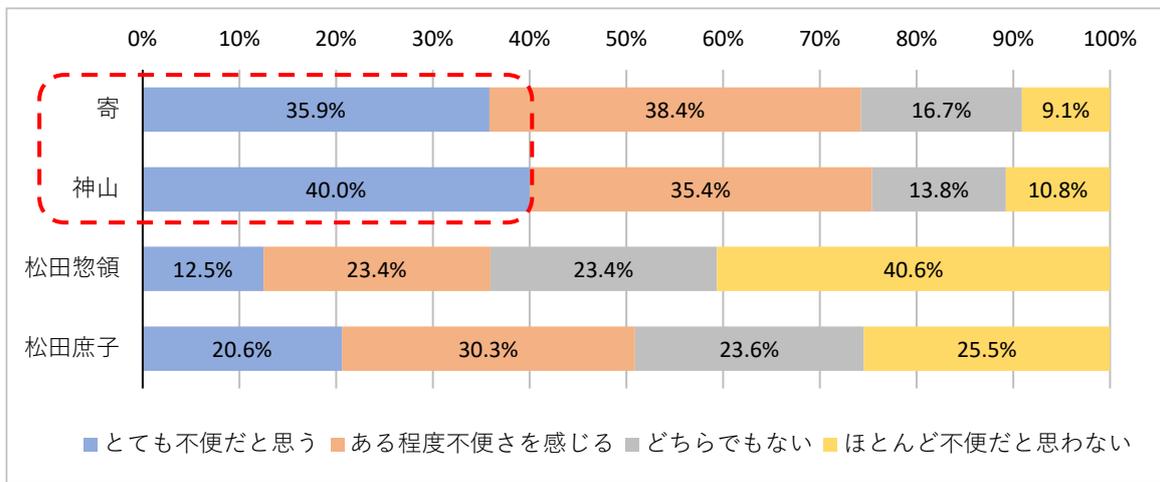


図 地域別にみたバスについての不便さの状況

注：比率割合は四捨五入の関係から必ずしも 100%とはならない

3. 自治会アンケート調査結果

(1) 運転免許返納者の状況や運転に不安を持つ人の状況

- 高齢などの理由により自家用車の運転をやめられた方は、各自治会長がそれぞれ数人程度把握している状況です。
- 自家用車の運転に不安を感じている方の存在については、プライバシーに関することもあり把握されている状況にはないが、多くの自治会長の個人的な見解としては運転に不安を感じている人は多いが、車が運転できなくなると日常生活の移動に支障をきたすことから、80歳くらいまではなんとか運転しているとの回答が多くなっています。

(2) 自治会内における公共交通に関する相談や悩みの有無

- 相談や悩みを聞くことはないという回答がほとんどです。
- 萱沼自治会では、「定時運行ルートでのバス停まで約 1.5 km、坂道が多いため、年配者、足の不自由な方は苦勞されている」、「バス停から自宅までの道路は、街灯が少なく、坂道のため不安を感じている方が多い」
- 弥勒寺自治会では、「バス、タクシーが天候不順の時など、すぐに止まってしまうことが多かった」
- 店屋場自治会では、「バス停が遠い。本数が少ない。」
- 沢尻自治会では、「行きたい場所への路線バスがない、本数が少ない。」
- 城山自治会では、「自宅からバス停までの距離があり、タクシーに頼るケースが多いと語る方がいる。」

(3) バスの利用についての考え方、バスを利用しやすくするための方策

- 寄地域の自治会では、「バス停までの距離がある」、「運行本数が少ない」、「運行時間帯が利用ニーズ合わない」等の意見が多く、運行本数の増便、運行ダイヤの変更を望む意見が多くあります。
- 神山自治会では、大半の方はバスの利用はしていないとの回答ですが、「潜在需要を含め、現在の利用者の需要内容を把握し、小型化や増便の対策（必要時間帯や行き先等に集中して）ができれば利用しやすくなる」との意見が出されています。
- 松田惣領地域では、以下の意見があげられています。
 - ・「運行ダイヤや行き先など、利用時の条件・用途に合った運行」、「巡回バスのように自宅近くから利用できるとよい」（店屋場自治会）
 - ・「ワゴン車など小型バスの定期運行本数を多くして、生活に便利なところに行けるようにすることが必要」（中丸自治会）
 - ・「買い物、通院、公共施設利用のための交通手段としてバス利用を確保したい」、「町内だけではなく、買い物のための隣町への移動可能なオンデマンドバス運行を望みたい」（中央自治会）
 - ・「小型バス、ワゴン車で家の前まで来てもらえれば利用者も増え便利である」（谷戸自治会）
 - ・「町で予約制送迎バス用意し、午前出発の部と午後出発の部で送迎サービスできるようにするなど使う側にとっての利便さ提供する必要がある」（中沢自治会）

-
- ・「バス路線、運行本数の増便、目的場所（バス停以外）での乗降」（沢尻自治会）
 - ・「コンパクトなバスで、大井町のヤオマサやカインズホーム、開成町のロピアに行き、帰ってくるものがあると高齢者には便利」（仲町屋自治会）
 - 松田庶子地域では、以下の意見があげられています。
 - ・「乗降についてはどこでも（オンデマンド）利用できるように」（谷津自治会）
 - ・「①バスを小型化して路地まで入って来ることができるようにする。②高齢者割を作って欲しい。③高齢者等が利用するための買い物定期便（1～2回/週）があるとよい、等」（かなん沢自治会）
 - ・「路線バス中心からミニバスあるいはワゴンを多様化して細かい道まで入り込める体制をとる必要がある」（城山自治会）

（４） タクシーを呼んだ場合の待ち時間、タクシー利用についての不満や問題点

- 寄地域では、タクシーを呼んだ場合、弥勒寺自治会、土佐原自治会、宇津茂自治会では30～40分程度、虫沢田代自治会では20～30分程度、湯の沢自治会では15分程度。
- 神山地域では、タクシーを呼んだ場合は15分程度。
- 松田惣領地域では、駅まで近い自治会が多く、タクシーを利用する機会がないとの回答が多い。回答のあった店屋場自治会、中央自治会、新松田自治会、谷戸自治会では10～15分程度、茶屋自治会では20～30分程度。
- 松田庶子地域では、タクシー利用についての回答が少なく、かなん沢自治会で30分以内。

（５） 自治会住民が抱える日常の移動についての困りごと

- 寄地域では、「病院への通院、買い物目的等に利用できるバスの運行本数が少ない」、「バス停までの距離が遠い」などの意見が寄せられています。
- 神山地域では、「バスは本数が少なく、タクシーは料金が高い（負担しきれない）こと」が困りごとと認識されています。
- 松田惣領地域では、「買い物支援のための生活支援体制を行政主体のものや、民間における支援体制作りが急務」、「車を使わなければ日常の買い物ができない」、「町内にスーパーがないため他町へ買い物に行く」、「高齢で自家用車がないと、町内、近隣市町へも行けなくなる」等の意見が寄せられています。
- 松田庶子地域では、「道路が狭く相互通行できないところが非常に多い」（中里自治会）という意見が寄せられています。

（６） 将来的に必要と思われる公共交通システムのイメージ

- 寄地域では、以下の要望が寄せられています。
 - ・「予約があった乗降ポイントを巡回するデマンド区域運行型のバス」、「旧養鶏地区にも乗入れできる小型バスを要望」（萱沼自治会）
 - ・ほとんどの方は秦野・渋沢方面へ買い物に出かけていることから「松田－寄－秦野（渋沢）の循環型バスの運行」（弥勒寺自治会）
 - ・「5年後か10年後かわからないが、コミュニティバス等が必要」（土佐原自治会）
 - ・「町内循環する公共交通」（虫沢田代自治会）

-
- 神山地域では、「必要時に呼べば来てくれて、目的地（近くでもOK）に運んでくれることが理想」という意見が寄せられています。
 - 松田惣領地域では、以下の要望が寄せられています。
 - ・「スーパー、病院、駅を巡回するバス」（店屋場自治会）
 - ・「近隣（開成町、大井町、秦野、小田原など）の大型スーパーマーケットや病院、役場などを定期的に循環するコミュニティバス」（中丸自治会）
 - ・「自宅前での乗り降り可能、買い物の補助付きの送迎」（谷戸自治会）
 - ・「町内・近隣市町循環バス」（沢尻自治会）
 - ・「コンパクトで小回りの利くバスが少額で利用できる、タクシーのような存在」（仲町屋自治会）
 - 松田庶子地域では、以下の要望が寄せられています。
 - ・「町内の全てに通行できる小型バス（普通車）を運行する」（谷津自治会）
 - ・「乗合タクシーが利用できるようになればよい」（かなん沢自治会）
 - ・「高齢化を考えると、あまり歩かなくて済むよう自宅近くまで来てくれるような公共交通があればよいが、現状では道路が狭く実現は難しいと思う」（中里自治会）